

2015年度

入学試験問題

社 会

40分

1. 受験番号・氏名を解答用紙に書くこと。
2. 受験番号は算用数字で書くこと。(例:123)
3. 答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 配付されたもの以外の下じき・用紙は使わないこと。
5. 用紙を立てて見ないこと。
6. 質問(印刷不明のところだけ)のある場合、鉛筆などを落とした場合、トイレに行きたくなった場合、気持ちの悪くなった場合は、だまって手をあげることを要する。

I. 次の文章を読んで、下の問に答えなさい。

日本では、東京・大阪・名古屋を中心とする①三大都市圏に全人口の半分以上が集中しています。②これらの都市圏がふくまれる平野にはいずれも大きな河川が流れています。東京圏では荒川や利根川、大阪圏では淀川、名古屋圏では木曾川、長良川、揖斐川がそのような河川です。

昔日本を治めた人びとも、明治時代以降の政府も、こうした河川には特に気を配ってきた歴史があります。

たとえば、1660年に江戸幕府は、淀川や大和川の上流にあたる山城・大和・伊賀で山々の木の根を掘り出さないことなどを指示しました。これは、燃料や木材として利用するために人びとが③木の根を掘り出していたところ、下流で洪水が起こったからです。

また、1783年に浅間山が噴火した後、④利根川では大洪水がひんぱんに起こるようになりました。利根川の洪水は江戸にも大きな影響を与えたので、江戸幕府は洪水のたびに堤防の修理などの工事をさせました。

人びとはこのような大きな河川の流域を開発し、利用してきました。

問1 下線部①について、三大都市圏の中で、全人口にしめる割合が最も大きい東京圏は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県からなります。東京圏の人口が全人口にしめるおおよその割合として、最もふさわしいものを次のア～エから1つえらび、記号で答えなさい。

ア 10%      イ 30%      ウ 50%      エ 70%

問2 下線部②について、日本では大きな河川の下流や河口の近くに平野が広がっています。このような平野（低地と台地）が日本の国土にしめるおおよその割合として、最もふさわしいものを次のア～エから1つえらび、記号で答えなさい。

ア 5%      イ 25%      ウ 55%      エ 75%

問3 下線部③について、山々の木の根を掘り出すことによって、なぜ洪水が起こるのでしょうか。また、その山々において、木の根を残しておくことのほかにどのような対策が考えられますか。説明しなさい。

問4 下線部④について、もう少し詳しく述べた次の文中の（ A ）に入る言葉を書きなさい。

浅間山噴火の時に噴き上げられた（ A ）が、関東平野の広い地域に降り積もり、数年かけて雨などによって利根川に流れ込んだことで川底が上がってしまい、1786年には江戸時代最大の利根川洪水が起こりました。

問5 文中の三大都市圏には、日本を代表する工業地帯がふくまれます。それらは、京浜工業地帯（東京都、神奈川県）、阪神工業地帯（大阪府、兵庫県）、中京工業地帯（愛知県、三重県）の3つの工業地帯です。表1は、これらの工業地帯の2012年の製造品出荷額です。表中の①～③にあてはまる工業地帯の組み合わせとして正しいものを、次のア～エから1つえらび、記号で答えなさい。

表1 三大工業地帯の製造品出荷額（2012年）

|   |           |
|---|-----------|
| ① | 50兆3698億円 |
| ② | 30兆6598億円 |
| ③ | 25兆9564億円 |

（『日本国勢図会 2014/15年版』をもとに作成）

- ア ①－京浜工業地帯 ②－中京工業地帯 ③－阪神工業地帯  
 イ ①－中京工業地帯 ②－京浜工業地帯 ③－阪神工業地帯  
 ウ ①－中京工業地帯 ②－阪神工業地帯 ③－京浜工業地帯  
 エ ①－京浜工業地帯 ②－阪神工業地帯 ③－中京工業地帯

Ⅱ. 次の文章を読み、別紙の地図を見て、下の問に答えなさい。

ここで私たちの目を、名古屋圏に向けてみましょう。愛知県西部・岐阜県南部・三重県北東部にまたがる平野は、濃尾平野と呼ばれています。この濃尾平野の南西部は、木曽三川と呼ばれる①木曽川・長良川・揖斐川が流れています。そこは、②川の恩恵を受ける反面、三川が合流して強い勢いになり、昔から水害が起きやすい土地でした。この三川は、洪水を起こすと流れるところが変化したり、二つに分かれて下流で合流したり、となりの川に合流して流れることがありました。

そこで、まわりを川で囲まれた地域の人びとは、水害を防ぐために川沿いには堤防を築き、集落や田畑の上流や下流も堤防で囲いました。このように、集落と田畑を堤防で囲んだところを輪中と呼びます。木曽三川の下流域では、こうした輪中がいくつもできました。またこのような輪中には、その中の水を川に捨てるためのしかけが設けられました。

こうした輪中では、何度も堤防を直したり、となりあう輪中と堤防をつなげて輪中を大きくしたりしていましたが、③それでも水害がたびたび起こりました。人びとはふだん暮らす家より高いところにもう一つ家をつくり、そこに食糧をたくわえたり、避難につかう小舟を吊したりするようになりました。

こうした輪中の一つである高須という集落の人びとは、1746年に次のような内容の手紙を江戸幕府に出しました。

「東には木曽の山、北西には高い山が連なり、多くの川が流れてきます。木曽川は揖斐川へ合流して流れてゆきます。木曽川は洪水のたびに土砂を押し流して来るので川底が埋まり、常に水位が高くなります。…（中略）…木曽川と揖斐川を河口まで分けて、海に流れ込むようにしてください。」

（『岐阜県治水史』に収められている高須輪中の人びとの手紙をもとに作成）

高須に限らず、いくつもの輪中の人びとが、何度も幕府に手紙を書いて、洪水を防ぐための河川工事をしてくれるようにと頼みました。



そこで幕府は、このような人びとの願いをうけて河川工事にとりかかることにしました。そのような工事の中でも大規模だったのが、幕府が1754年から④薩摩藩<sup>さつまはん</sup>に行わせた工事でした。⑤薩摩藩がこのような工事を行うことになったのは、幕府によってこのような義務を負わされていたからです。薩摩藩はこの工事に多くの藩士を送りました。工事費用は約40万両に達し、幕府も約1万両を負担しましたが、残りは薩摩藩が負担しました。この工事では、木曾川と揖斐川が合流する地点に堤防を築いたり、二つの河川をつなぐ川の水量を調節するためのしかけを設けたりしました。

それでも三つの川の流れを完全に分けることはできず、この地域の工事は明治政府にひきつがれてゆきます。明治政府は多くの予算を投じ、⑥オランダ出身の技師<sup>ぎし</sup>デ＝レーケの力を借りて、さらなる工事を行いました。この工事は1887年に始まって1912年に完成しました。これにより、木曾三川は分かれて流れるようになって水害は大きく減りました。

問1 下線部①について、木曾川の水源となっている山脈は、木曾山脈ともう1つあります。正しいものを、次のア～エから1つえらび、記号で答えなさい。

ア 奥羽山脈<sup>おうう</sup>      イ 越後山脈<sup>えちご</sup>      ウ 飛騨山脈<sup>ひだ</sup>      エ 日高山脈<sup>ひだか</sup>

問2 下線部②について、木曾川は、上流の山々から重要な特産物を運ぶのに使われていました。それは何ですか。答えなさい。

問3 下線部③について、川を挟んでいくつも輪中<sup>はさ</sup>ができると、かえって水位が高くなり水害が起きやすくなってしまいます。それはなぜですか。説明しなさい。

問4 下線部④について、薩摩藩の藩名にもなっている薩摩は、現在の都道府県でいうと何県にふくまれますか。答えなさい。

問5 下線部⑤について、幕府が大名に負わせていたほかの義務として、正しいものを、次のア～オから2つえらび、記号で答えなさい。

ア 江戸城を修理すること  
イ オランダと貿易すること  
ウ 大宰府<sup>だざいふ</sup>を防衛すること  
エ 参勤交代をすること  
オ 国分寺<sup>こくぶんじ</sup>を建てること

問6 下線部⑥について、デ＝レーケが日本で活やくした時期、近代化をめざす政府は高い給料<sup>はら</sup>を払って多くの外国人を雇<sup>やと</sup>いました。それは何のためですか。説明しなさい。

問7 江戸時代に整備された東海道<sup>とうかいどう</sup>では、地図中の宮<sup>みや</sup>から桑名<sup>くわな</sup>までの間、人びとは陸地を通らずに船を使うことが普通<sup>ふつう</sup>でした。なぜ陸地<sup>き</sup>を避けたのですか。説明しなさい。

Ⅲ. 次の文章を読み、別紙の地図を見て、下の問に答えなさい。

現在の愛知県には、人口約 227 万人の名古屋市があり、県の中央部には①自動車生産の一大拠点となっている都市があります。一方、愛知県では農業もさかんで、2012 年の農業産出額は 3000 億円を超え、全国 6 位です（「あいち県勢要覧 2015」による）。作物の収穫量に注目してみると、2012 年では②（ A ）が全国 1 位、トマトが全国 4 位、玉ねぎが全国 4 位です（『日本国勢図会 2014/15 年版』による）。また、伊勢湾につき出る知多半島では、洋らん、きく、カーネーションなど、花の栽培もさかんです（愛知県農林水産部農林政策課監修「よくわかるあいちの農業 2014」による）。

知多半島は、古くから③水不足に悩まされてきた地域です。特に 1944 年から 1947 年にかけて、相次ぐ水不足にくわえて地震も起こり、人びとの間では不安が広がっていました。このころ、知多半島の農民が中心となって、この地域の水不足を解消するために活動するグループが結成されました。こうしたグループが、県や政府を訪ねたり手紙を出したりして、熱心に働きかけたこともあり、政府は木曾川から知多半島へ水を流す用水路の建設を決めました。この用水路を、④愛知用水といい、1961 年に完成しました。愛知用水をつくるための費用は 400 億円を超え、このうち約 17 億円を海外からの借金でまかないました。工事にはアメリカの技術者も協力し、工事に使う大型機械の多くはアメリカから輸入されました。全長 100km を超える用水路は、5 年ほどの工事で完成しました。⑤愛知用水は、現在も愛知県の産業や生活を支えています。

問 1 下線部①について、この都市を答えなさい。

問 2 下線部②について、（ A ）には、ある作物が入ります。この作物は、名古屋周辺で昔からさかんに栽培されてきました。この作物を次のア～エから 1 つえらび、記号で答えなさい。

ア キャベツ      イ ジャがいも      ウ 茶      エ ぶどう

問 3 下線部③について、知多半島の人びとは、愛知用水ができるまでは、ある工夫をして水を確保していました。その工夫は、地図から読み取ることができます。どのような工夫ですか。答えなさい。

問 4 下線部④について、愛知用水はどのような地形のところを通っていますか。地図に示した等高線や標高に注目して答えなさい。

問 5 下線部⑤について、表 2 は、愛知用水ができたころ（1963 年）と、完成から 50 年目（2010 年）における愛知用水の水の使われた量と用途の割合を示したものです。愛知用水の使い道がどのように変化しましたか。また、それはなぜですか。表 2 と地図を見て、説明しなさい。

表 2 愛知用水の年間使用水量と用途別割合

|        |         | 1963 年               | 2010 年               |
|--------|---------|----------------------|----------------------|
| 年間使用水量 |         | 1.4 億 m <sup>3</sup> | 4.5 億 m <sup>3</sup> |
| 用途別割合  | 農業に用いる  | 65%                  | 20%                  |
|        | 水道水に用いる | 9%                   | 26%                  |
|        | 工業に用いる  | 26%                  | 54%                  |

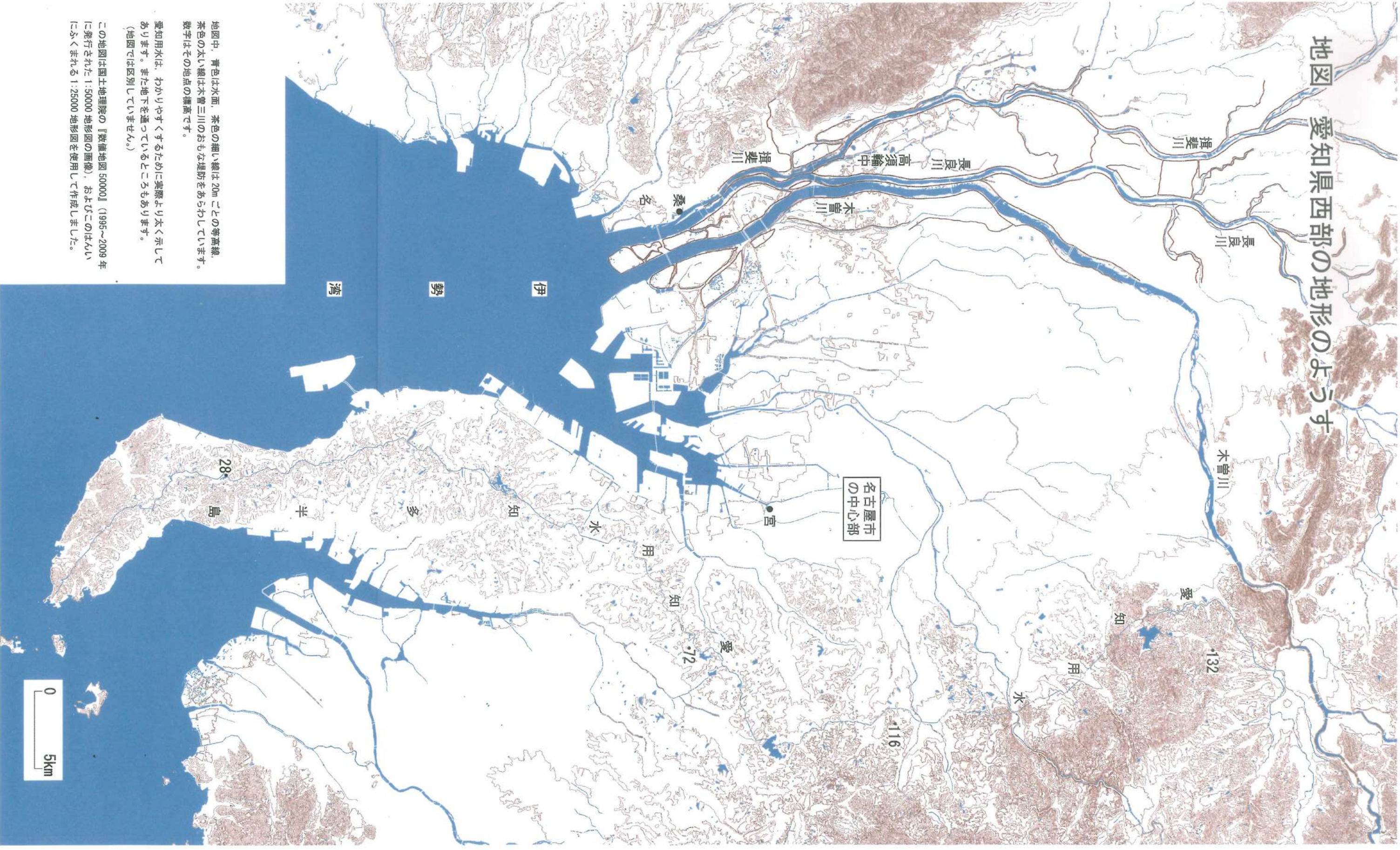
（独立行政法人水資源機構愛知用水総合管理所ホームページをもとに作成）

Ⅳ．木曾三川の下流域と知多半島に住む人びとは、それぞれどのような問題をかかえ、それらの問題に対して自分たちでどのような工夫をしてきましたか。これまでの問題を解いてわかったことを説明しなさい。

Ⅴ．上のⅣで答えた問題は、三川分流工事や愛知用水の建設によって大きく改善されました。これらの工事は、行われた時代や場所は異なりますが、工事を始めるにあたって《地域に住む人びと》と《幕府や政府》がそれぞれ果たした役割に注目すると、共通することもあります。それはどのような役割ですか。ⅡとⅢの問題文や、これまでに答えた内容をもとに説明しなさい。



# 地図 愛知県西部の地形のようす





I.  
問1

問2

問3

※

問4

問5

II.  
問1

問2

※

問3

問4

県

問5

※

問6

問7

※

III.  
問1

市

問2

問3

問4

※

問5

※

IV.

※

V.

※

受験番号

氏名

評点

※